

まちひとしごと

Vol. 44

(有)須藤写真館

代表取締役 ^{すどう}須藤 ^{じゅんじ}淳司 さん

地域と人をカメラでつなぐ



創業から55年。須藤写真館の代表取締役、須藤淳司さんに話を伺った。

写真館を創業した両親のもと倶知安町で生まれ、中学卒業までを過ごし、小樽市の高校へ進学。学生時代はサッカーとスキーに打ち込む毎日だったと話す。

「幼いころからカメラや撮影機材が、当たり前のように生活の中にあっただけで、高校卒業後は東京都内にある写真の専門学校へ進学しました」

専門学校で写真やカメラについて学びを深め、卒業後は広告系のカメラマンなどで現場経験を重ね

た後、都内の大手出版社へ入社し、同社が手掛ける情報誌の専属カメラマンとなった。

「その後は、勤めていた出版社が北海道民向けの情報誌も発行していたことから、その担当として約10年ぶりに北海道へ戻ることになりました」

札幌市へ移り住み、しばらくは情報誌のカメラマンとして、また個人の写真家として活動が続いていたが、両親の年齢的な理由から、須藤写真館を受け継ぐため、倶知安町へ戻ったという。

「写真を撮ることは、専門学校を含め現場でも経験を積んできましたが、写真館を経営する上では、営業なども行わなければならず、初めは苦労しました」

これまで以上に忙しくなった日々で、写真館でのスタジオ撮影に、学校や幼稚園行事での写真撮影、また、写真家スドウジュンジとしての活動を続けている。

「最近では、高文連後志支部の大会での講演や、町内小学校での出張授業を行うなど、若い世代に自身の経験を伝えることで、地域と関わる機会も増えました」

学校行事や年中行事などで、カメラを持った須藤さんと子どもた

ちが関わる機会是非常に多く、町外で卒業生から声をかけられることもあるほど身近な存在だ。

「子どもたちとは一人一人と同じ目線でコミュニケーションをとることを大切にしています。一方でスマートフォンに高性能なカメラが付き、写真を撮ることが非常に身近になった現代ですが、ここ数年、家族写真を写真館で撮りたいという方は増えており、撮影のために頂いた貴重な時間を無駄にしないよう、心がけています」

今後は、写真やカメラを通して、今まで以上に、町の人と接する機会を増やしたいと話す須藤さん。

「誰にとってもカメラが身近な時代だからこそ、その楽しさを伝える機会があればと考えています」

美しい景色や、素敵な飲食店など素晴らしい被写体に恵まれている倶知安町で、町の人が写真を撮ることを通じ、これまで以上に町のことを好きになってくれればと須藤さんは話していた。

※まちひとしごとは不定期連載です